

H O T N E W S



日本コエンザイムQ協会、発足

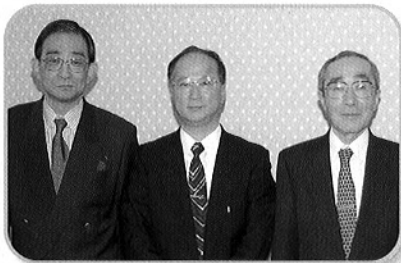
「CoQ10は高齢化社会の切り札」と力強く宣言。
普及・研究のいつそその活発化に期待が集まる。

さる11月1日、日本コエンザイムQ協会が設立され、記者発表会が開催されました。協会設立の主な目的は、コエンザイムQ10（以下、CoQ10）の正しい知識の普及・啓発と研究の奨励です。会場には30社を超える報道陣が集まり、協会設立に対する大きな期待をうかがわれました。

設立の挨拶に立った山本順寛協会展理事は、CoQ10が昨年ようやくサプリメントとしての利用が認められた日本は、実はうつ血性心不全の改善薬として世界に先駆けてCoQ10を利用してきたこと、世界的に見てもCoQ10の量産化に成功しているのは日清ファルマをはじめ国内の4社だけであることなどに触れ、「CoQ10は日本発の高

齢化社会の切り札」であると力強く説明。多くの効果が確認されているCoQ10に今後とも注目してほしいと強調しました。続いて、自らもCoQ10に救われた経験を持つ永田勝太郎理事、世界で初めてCoQ10の量産化に成功した府川秀明理事がCoQ10の魅力などを話し、報道陣の注目を集めていました。

山本理事長らは、日本でサプリメントの利用が認可されたのを受けて、国際コエンザイムQ協会の理事会で日本支部の設立を提案。これが認められて今回の正式な協会発足が実現したものです。協会設立を弾みに、今後さらにCoQ10の普及が進むものと期待されています。



(写真右から)日本コエンザイムQ協会理事・府川秀明日清製粉元常務取締役、同理事長・山本順寛東京大学大学院助教授、同理事・永田勝太郎浜松医科大学保健管理センター講師(心療内科)。